

3 ボデー

3・1	ボデー本体	3-2
3・2	ボデー外装	3-3
	ボデー外装部品	3-3
3・3	ボデー内装	3-4
	運転席回り	3-4
	シート	3-4
	トリム & ガーニッシュ	3-6
3・4	その他のボデー部品	3-7
	ミラー	3-7

3・2

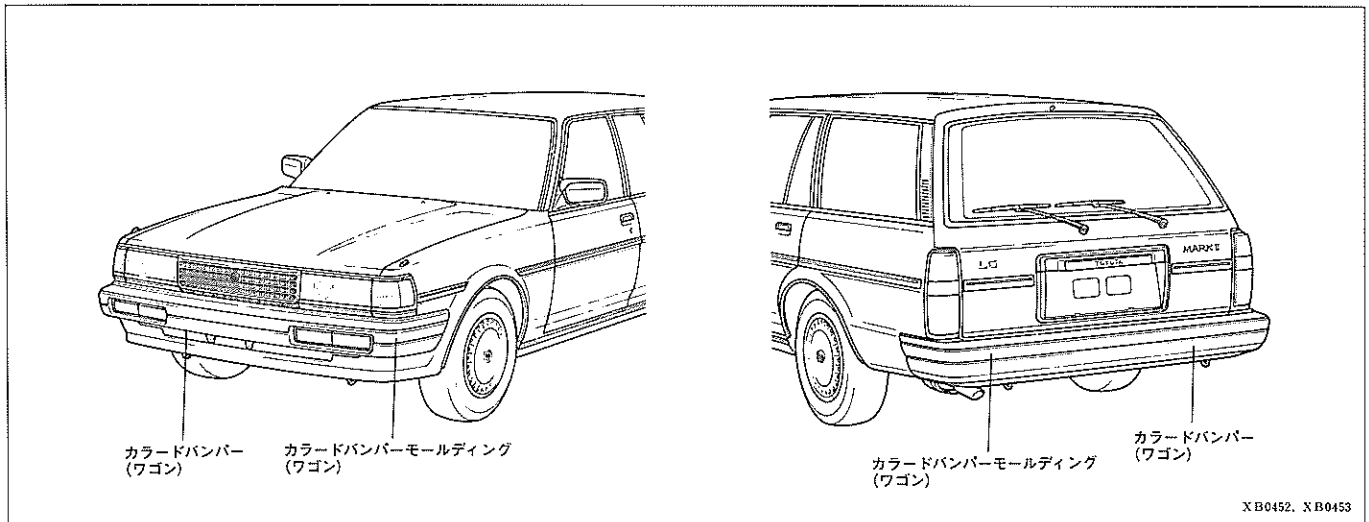
ボデー外装

■機構説明

□ボデー外装部品

1. フロント & リヤ回り

- ワゴンのLGに外板色と共色のフルカラーードバンパーを設定しました。(バンパーモールディング部も共色です。)
- ワゴンのLGグランデエディションにカラーードバンパーを設定しました。なお、カラーードバンパーモールディング色は、外板色スーパーホワイトⅣ(050)にシルバーメタリック色を、ダークモープマイカメタリック(3K1)にブラックメタリック色を、ベージュマイカメタリック(4J1)およびスーパーシルバーⅢメタリック(176)にグレーマイカメタリック色を、ツートーン(25S)のフロントバンパーにボデー上部色(180)と同色を、ツートーン(25S)のリヤバンパーにボデー下部色(176)と同色を設定しました。

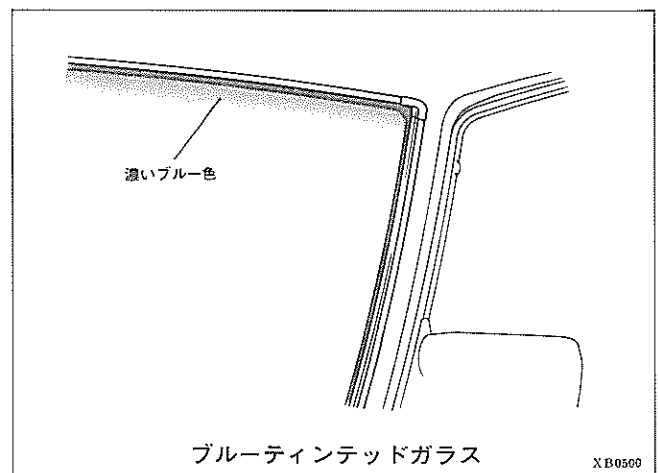


2. サイド回り

- カラーードタイプのサイドプロテクションモールディングをワゴンのLGグランデエディションに設定しました。また、モールディング色は、外板色スーパーホワイトⅣ(050)にシルバーメタリック色を、ダークモープマイカメタリック(3K1)にブラックメタリック色を、その他の外板色にグレーメタリック色を設定しました。

3. ウィンドウ回り

- ウィンドウガラスは、ワゴンのLGグランデエディションの内装色ニューマルーン、セーブルにブロンズガラスを設定して、車格感の向上をはかりました。
- ウィンドシールドガラスは、ワゴンのLGグランデエディションの内装色グレーにブルーティンテッドガラスを設定して、遮光とともに車格感の向上をはかりました。



3・3

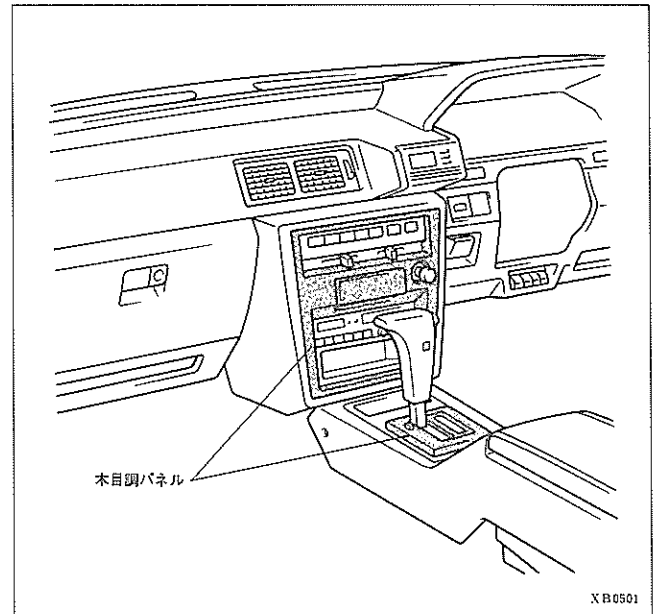
ボデー内装

■機構説明

□運転席回り

1. インstrumentパネル

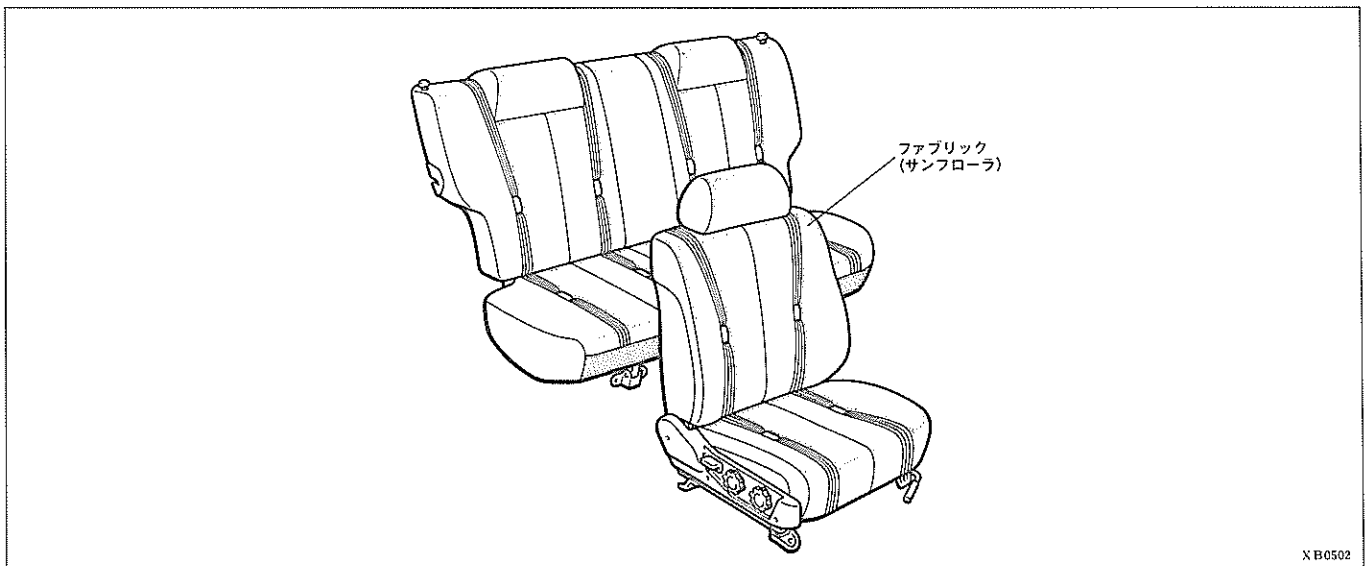
- ワゴンのLGグランデエディションは、インstrumentクラスタ—フィニッシュセンターパネルなどを、落ち着いた色調の木目調としました。



□シート

1. シートバリエーション

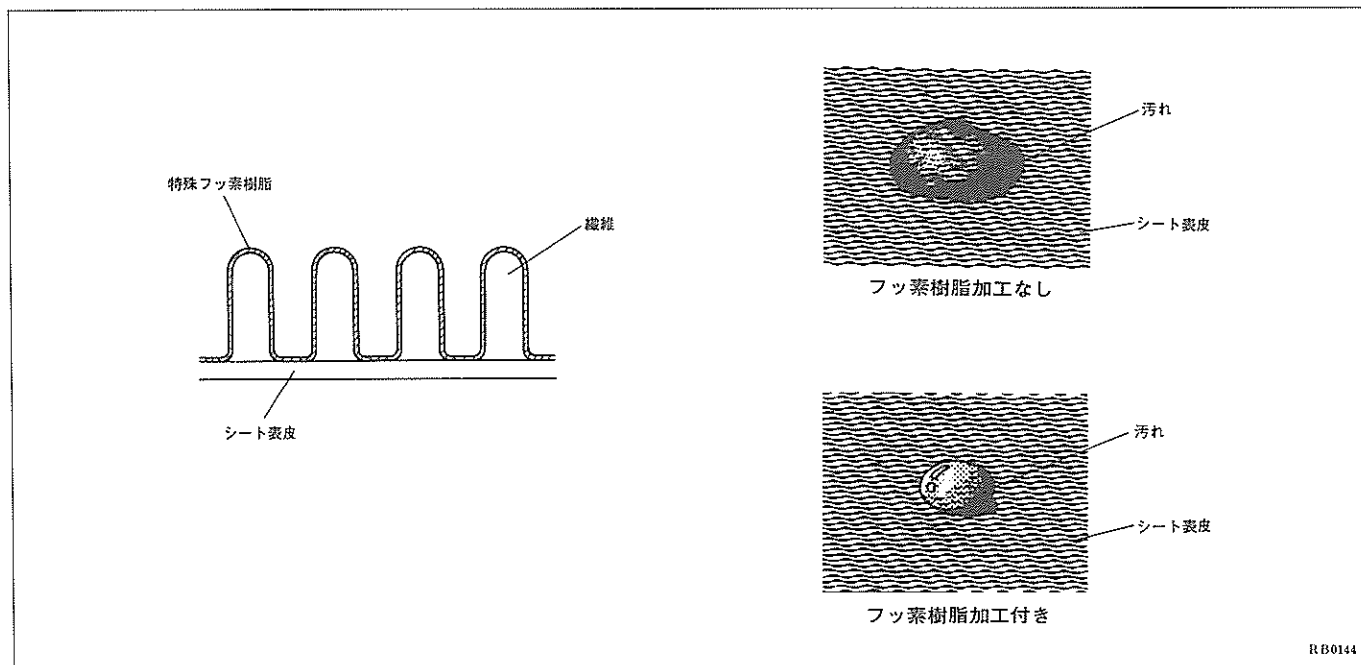
- ワゴンのLGグランデエディション専用のシートを設定しました。
- シートファブリック部に特殊フッ素樹脂加工を施したシート表皮をワゴンのLGグランデエディションに採用して、液状汚れに対する抵抗力を高めました。



▶ 構造と作動

【1】 フッ素樹脂加工シート表皮

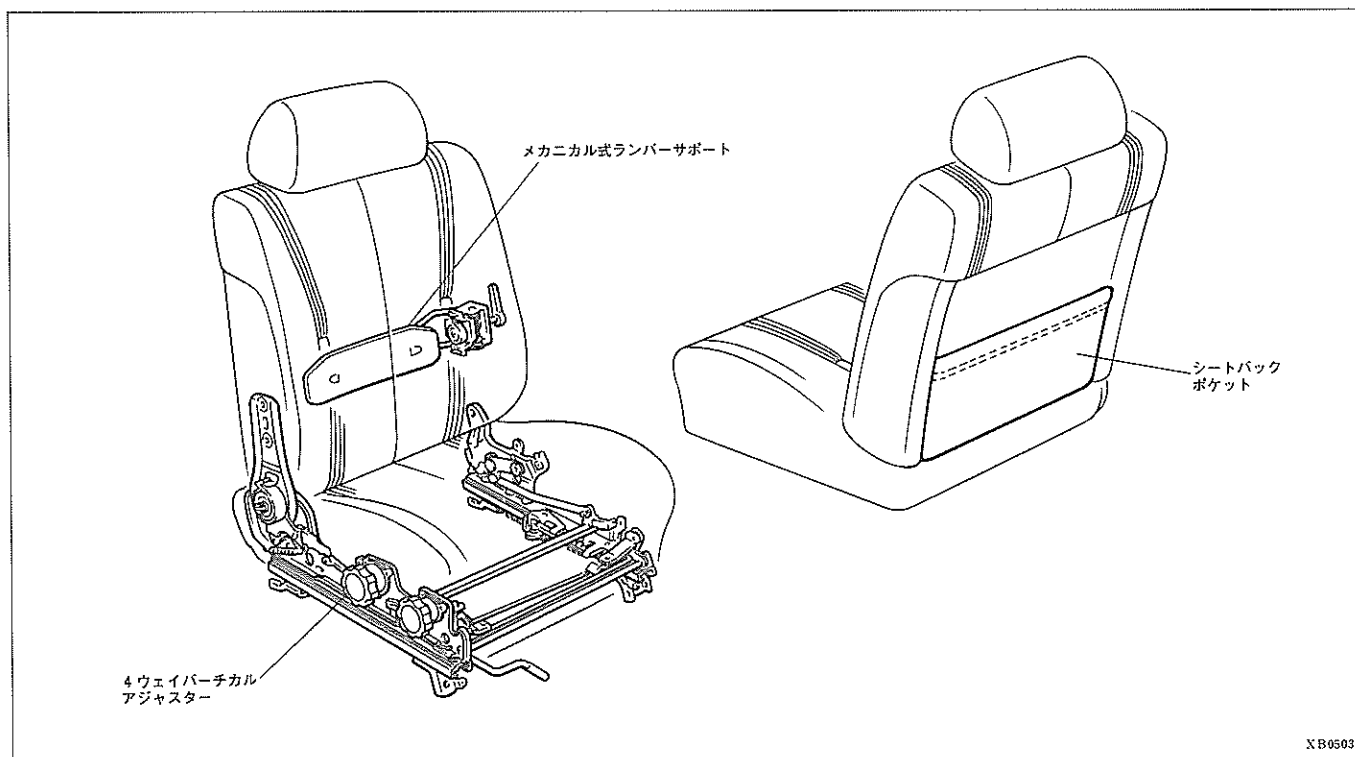
- ファブリックシートのメイン部にフッ素樹脂加工シート表皮を採用しました。
- シート表皮には、フッ素を末端基にもつ特殊フッ素樹脂を繊維表面に付着させて、液状汚れに対する長期抵抗力を付与しています。フッ素樹脂加工することにより、表面張力が低くなり、汚れがつきにくく、除去しやすくなります。



RB0144

2. フロントシート (LGグランデエディション)

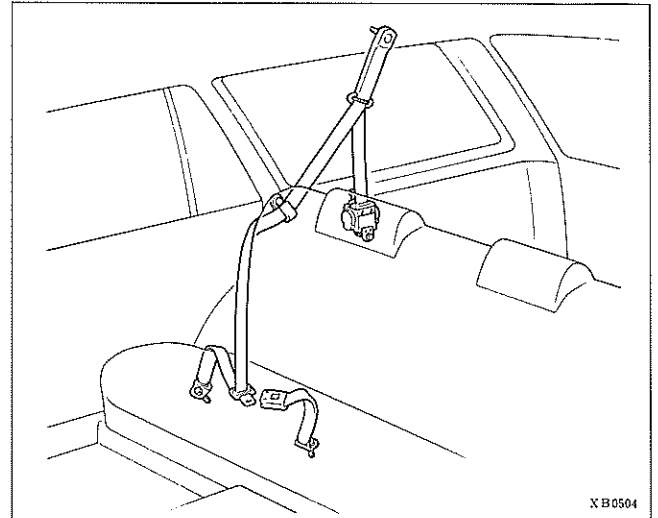
- 運転席に4ウェイバーチカルアジャスターおよびメカニカル式ランバーサポートを採用して、使用性の向上をはかりました。
- シートバックポケットを設定して、使用性の向上をはかりました。



XB0503

3. リヤシートベルト

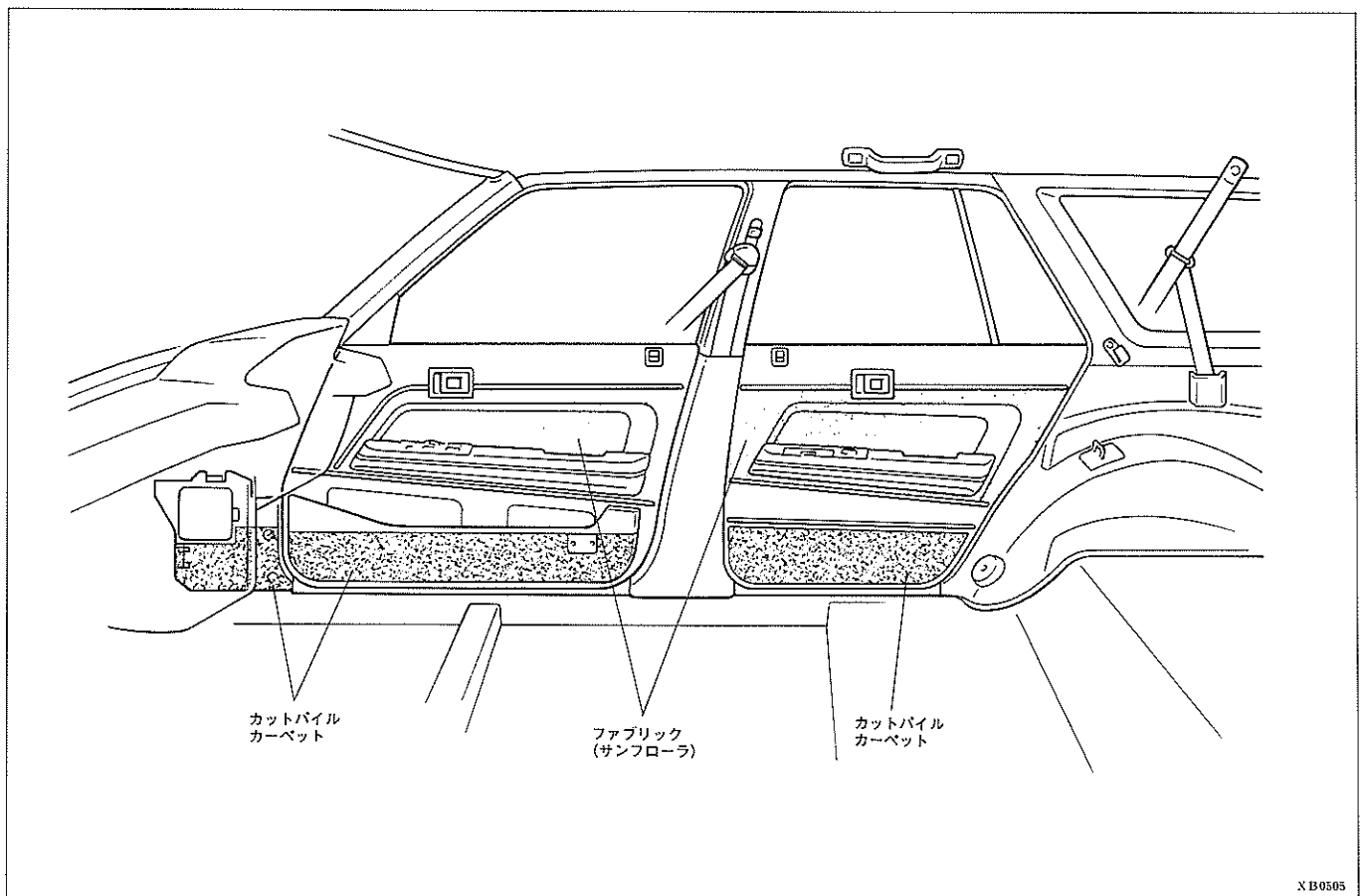
- 外側席のシートベルトは、3点式ELRタイプをワゴン全車に標準設定しました。



□トリム & ガーニッシュ

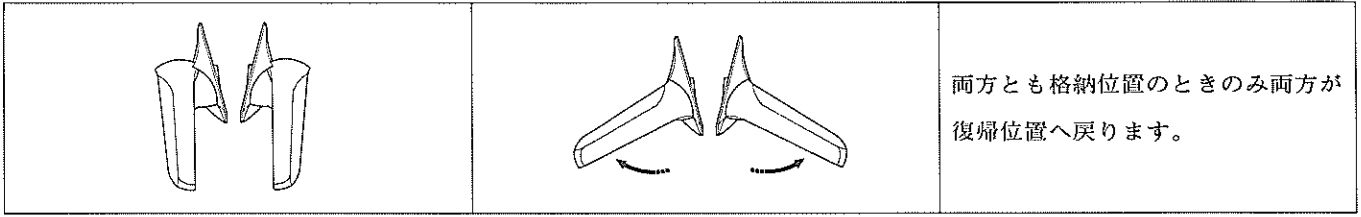
1. サイド & ルーフ回り

- ワゴンのLGグランデエディション専用のトリム、ガーニッシュを採用して、品質感の向上をはかりました。また、トリムのカーペット部は、カットパイルカーペットとしました。



2. デッキトリム & カーペット

- ワゴンのLGグランデエディションは、フロアカーペットおよびトリムのカーペット部に、カットパイルカーペットを採用しました。

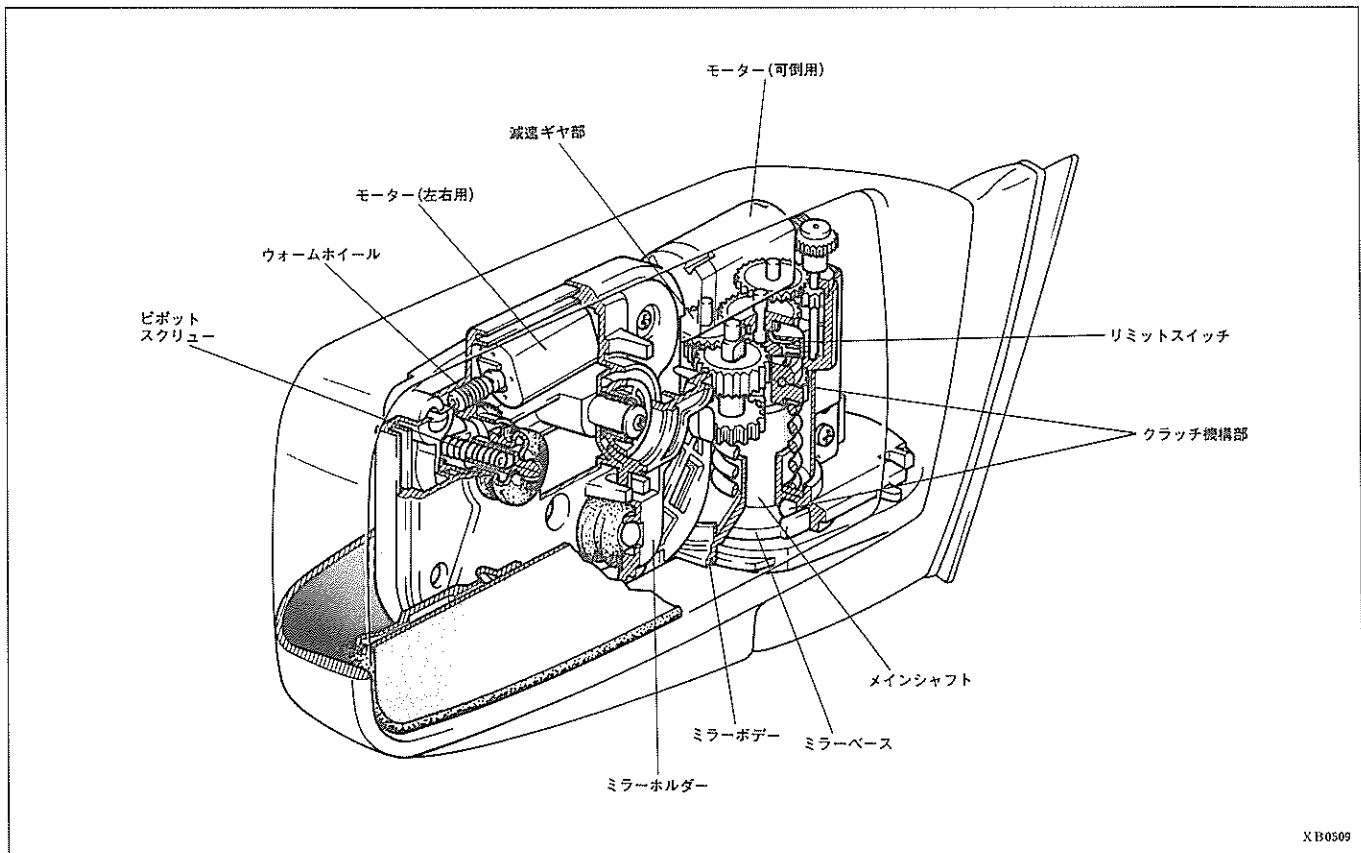


両方とも格納位置のときのみ両方が復帰位置へ戻ります。

XB0508

〔2〕 構造

ミラー本体は内部にモーターの回転を多数のギヤを使用して減速し、車両本体に固定されているメインシャフトのギヤとかみ合ってメインシャフトの回りを回転する駆動部および駆動停止用のリミットスイッチと、ミラーボデー下部にミラー固定および可倒時の節度感を持たせるクラッチ機構があります。

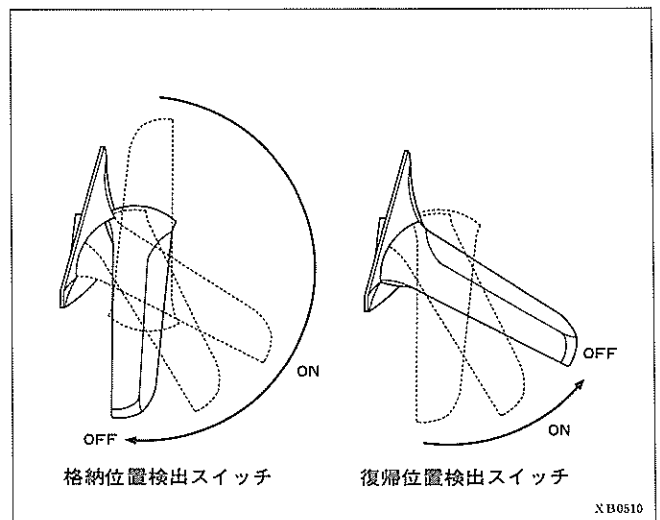


XB0509

(1) リミットスイッチ

格納位置検出スイッチと復帰位置検出スイッチの2つから成り、ミラーボデーの停止位置を判断してモーターの作動電源回路とし、作動側のスイッチ（ミラーボデー格納時は格納位置検出スイッチ、復帰時は復帰位置検出スイッチ）がOFFすることにより電源を自動的にOFFするようになっています。

位置 スイッチ	前方可倒	復 帰	後方可倒	格 納
格納位置検出	ON	ON	ON	OFF
復帰位置検出	OFF	OFF	ON	ON

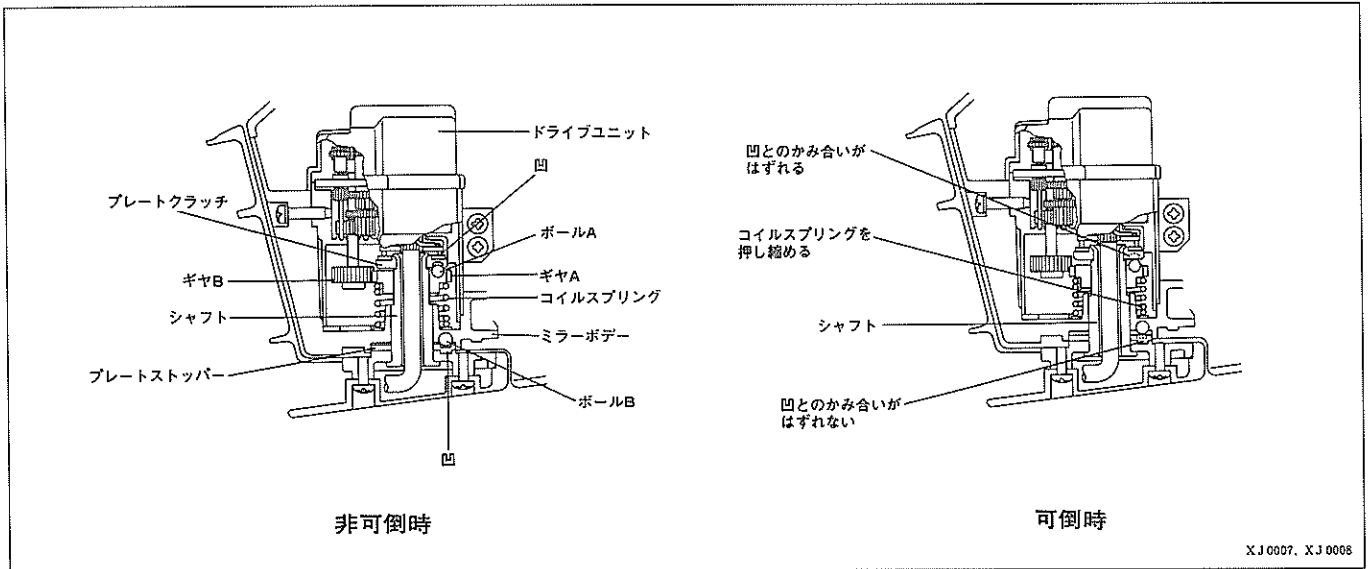


XB0510

(2) クラッチ機構

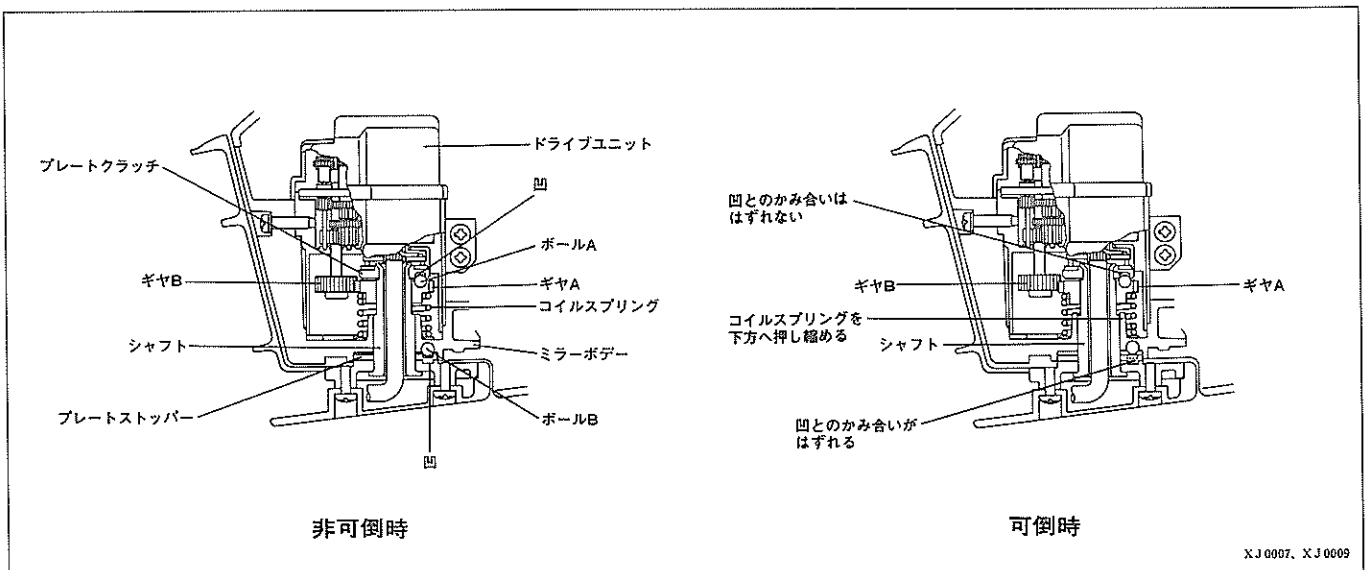
① 可倒機構 (手動可倒時)

ドライブユニット (モーターとギヤ格納部) は、ミラーボデーにスクリューで固定されておりミラーボデーに外力を加えるとモーターが回転していないので、ギヤBとギヤAのかみ合い関係は変わりません。従って外力 (手動可倒力) によりギヤAがコイルスプリングを下方へ押し縮め、またミラーボデーはコイルスプリングを上方に押し縮めます。するとボールAがプレートクラッチの凹と、ボールBがプレートストッパーの凹とのかみ合いからはずれてシャフトの周りをミラーボデーが回転します。このときギヤAとシャフトは空転します。可倒位置、復帰位置でそれぞれロックするように、プレートクラッチ・プレートストッパーには凹が設けてあります。



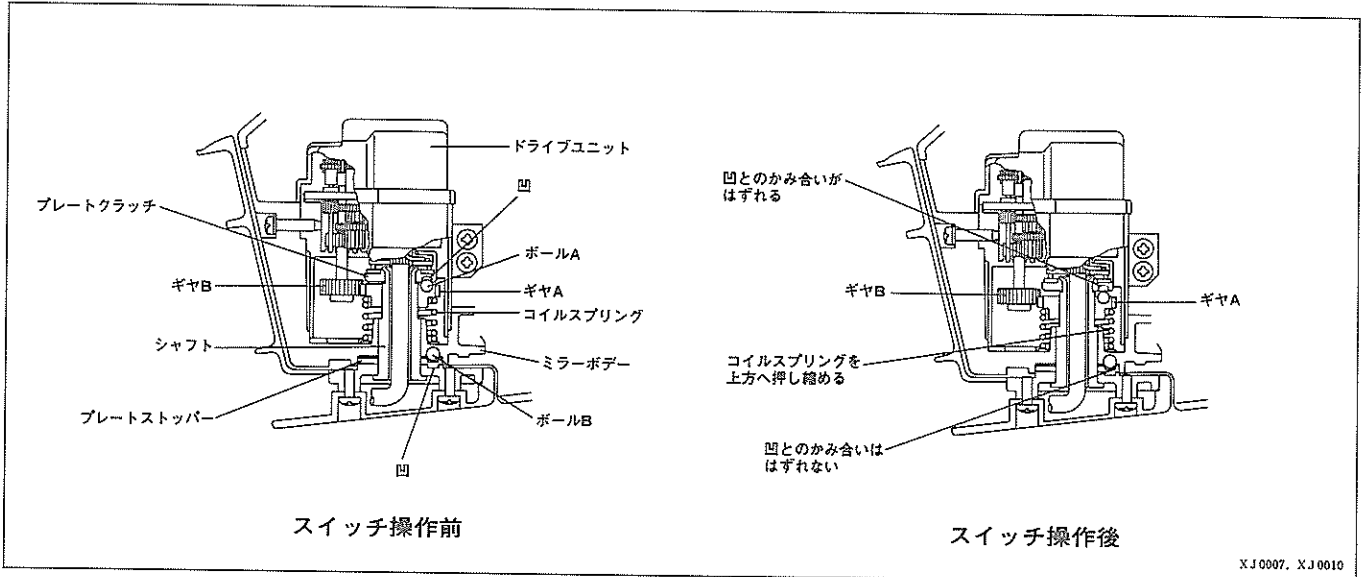
② 電動格納機構 (電動格納・復帰時)

スイッチによりミラーを格納・復帰すると、リミットスイッチにより判断された信号でドライブユニット内のモーターを回転し、各ギヤにより減速されギヤAに回転が伝えられます。最終ギヤAはボールAでプレートクラッチの凹にかみ合い、さらにコイルスプリングのコンプレッションにより規制されているため、ミラーボデーはコイルスプリングを上方に押し縮め、プレートクラッチの凹面より浅く抵抗の少ないプレートストッパーの凹とボールBのかみ合いをはずれシャフトの周りを回転します。このときギヤBはギヤAの外周を回転します。



③ 異常ロック機構（ミラーボデー回転不能時）

異物などのかみ込みや凍結のためシャフトの周りをミラーボデーが回転できなくなっても、電動格納機構が破損しないようになっています。万一ミラーボデーが回転できない場合は、スイッチを操作するとギヤBの回転はギヤAに伝えられますが、ミラーボデーが回転しないためギヤAがコイルスプリングを下方へ押し縮め、プレートクラッチの凹とボールAのかみ合いがはずれてギヤAのみが回転します。



〔3〕 作動

(1) 復帰位置から格納位置へ

復帰位置にミラーボデーがあるとき、IGスイッチ ACCで格納スイッチをONにすると、格納位置検出スイッチがONしているので電流は、 $S \rightarrow D_{12} \rightarrow R_7 \rightarrow D_6 (D_6) \rightarrow LRL (LRR) \rightarrow$ 格納位置検出スイッチ $\rightarrow FL (FR) \rightarrow$ アースと流れるとともに、 $S \rightarrow D_{12} \rightarrow D_{13} \rightarrow R_2 \rightarrow C_1 \rightarrow R_3 \rightarrow Tr_1$ と流れ Tr_1 のトランジスターが C_1 のコンデンサー充電中ONするので、 $S \rightarrow D_{12} \rightarrow R_{12} \rightarrow Tr_4 \rightarrow Tr_1$ と流れ Tr_4 のトランジスターがONし格納回路のみ作動します。

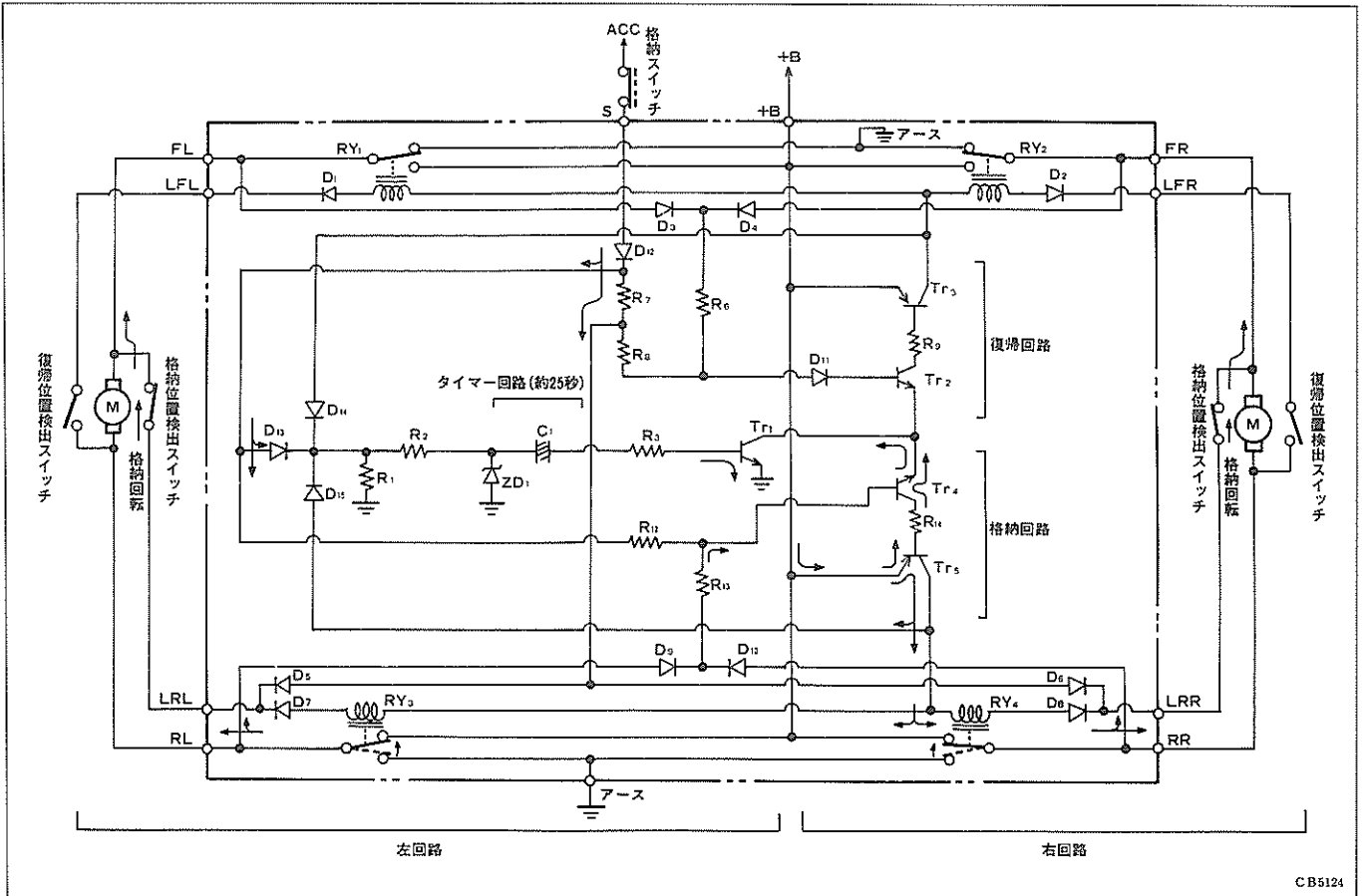
常時電圧がかかっている+B端子より+B $\rightarrow Tr_5 \rightarrow Tr_4$ と流れ、 Tr_5 のトランジスターがONし、 $+B \rightarrow Tr_5 \rightarrow RY_3 (RY_4) \rightarrow D_7 (D_6) \rightarrow LRL (LRR) \rightarrow$ 格納位置検出スイッチ $\rightarrow FL (FR) \rightarrow$ アースと流れ、 $RY_3 (RY_4)$ リレーのコイルが働き、 $RY_3 (RY_4)$ リレーのスイッチがONするので、 $+B \rightarrow RY_3 (RY_4) \rightarrow RL (RR) \rightarrow M \rightarrow FL (FR) \rightarrow$ アースと流れて電動格納モーターが格納側へ回転するとともに、 $+B \rightarrow RY_3 (RY_4) \rightarrow D_9 (D_{10}) \rightarrow R_{13} \rightarrow Tr_4$ と流れてモーター回転中は Tr_4 のトランジスターをONさせ、格納スイッチから手を離しても+B $\rightarrow Tr_5 \rightarrow D_{15} \rightarrow R_2 \rightarrow C_1 \rightarrow R_3 \rightarrow Tr_1$ と流れ、 C_1 のコンデンサー充電時間（約25秒） Tr_1 のトランジスターがONし続けます。

万一、ミラーボデーが異常ロックしても、 C_1 のコンデンサー充電（タイマー）時間後 Tr_1 のトランジスターがOFFし、 $Tr_4 \cdot Tr_5$ をOFFするので電源はタイマー時間後自動的にOFFします。

タイマー時間内にミラーボデーが格納し終わると、格納位置検出スイッチがOFFするので、 $RY_3 (RY_4)$ リレーがOFFし、 $Tr_4 \cdot Tr_5$ をOFFするので電源は停止位置で自動的にOFFします。

また、ミラーボデーが後方可倒位置で格納位置検出スイッチと復帰位置検出スイッチが両方ともONしていても、 Tr_2 のトランジスターがOFFしているので格納回路のみ働きます。

片側のミラーボデーが格納されているときは、格納されている方の格納位置検出スイッチがOFFしているので、リレーがONしないため格納されていないミラーボデーのみ作動します。



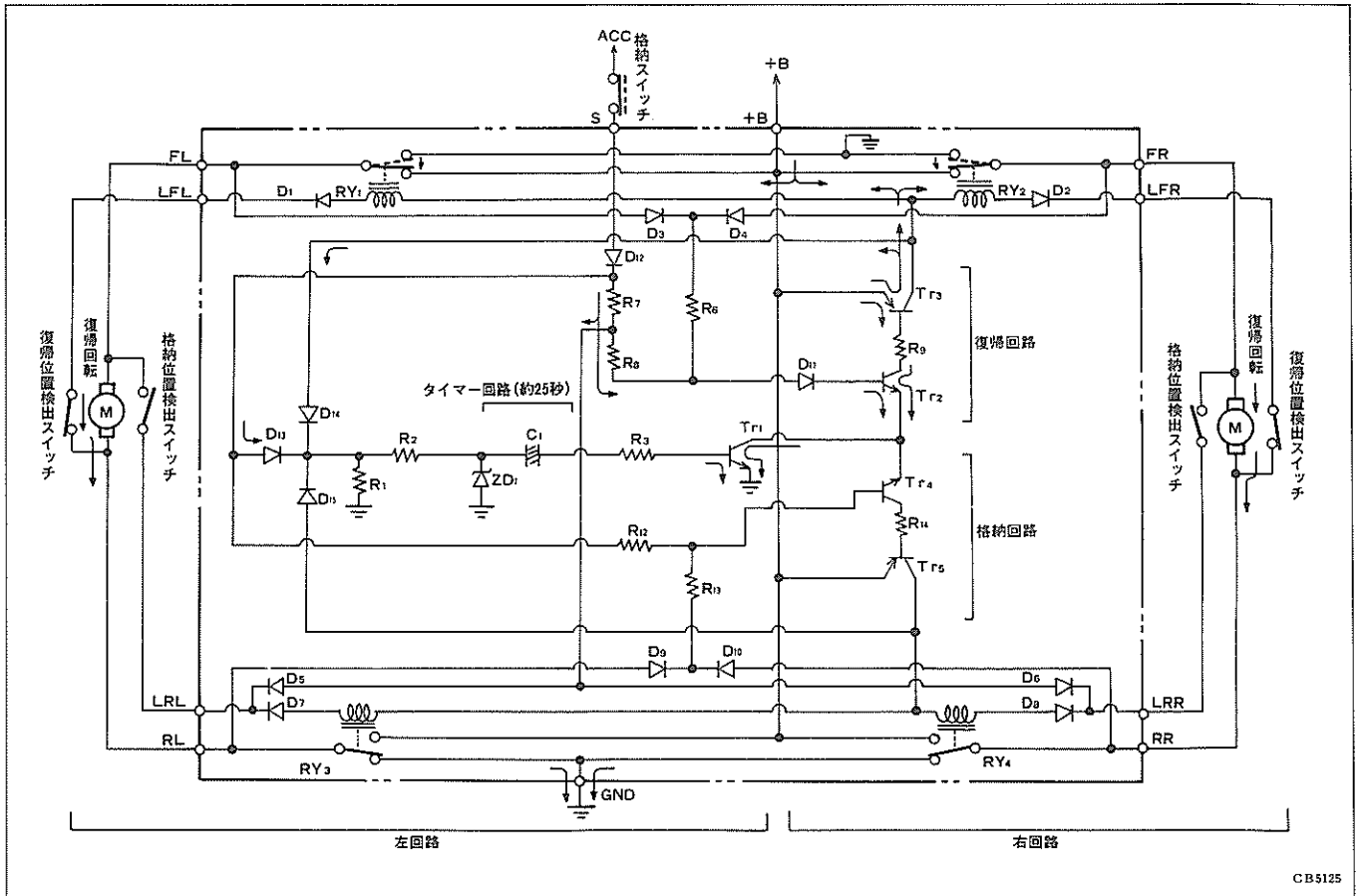
CB5124

(2) 格納位置から復帰位置へ

格納位置に両側のミラーボデーがあるとき、イグニッションスイッチ ACCで格納スイッチをONにすると、格納位置検出スイッチがOFFで復帰位置検出スイッチがONしているので、電流はS→D₁₂→D₁₃→R₂→C₁→R₃→Tr₁と流れTr₁のトランジスターがC₁のコンデンサー充電中ONします。

また両方の格納スイッチがOFFしているので、S→D₁₂→R₇→R₈→D₁₁→Tr₂→Tr₁と流れ、Tr₂のトランジスターがONします。それにより常時電圧がかかっている+B端子より+B→Tr₃→Tr₂と流れ、Tr₃のトランジスターがONし+B→Tr₃→RY₁(RY₂)→D₁(D₂)→LFL(LFR)→復帰位置検出スイッチ→RL(RR)→アースと流れ、RY₁(RY₂)リレーのコイルが働き、RY₁(RY₂)リレーのスイッチがONするので+B→RY₁(RY₂)→FL(FR)→Ⓜ→RL(RR)→アースと流れて電動格納モーターが復帰側へ回転するとともに、+B→RY₁(RY₂)→D₃(D₄)→R₆→D₁₁→Tr₂と流れてモーター回転中は、Tr₂のトランジスターをONさせているので格納スイッチから手を離しても+B→Tr₃→D₁₄→R₂→C₁→R₃→Tr₁と流れるので、C₁のコンデンサー充電時間Tr₁のトランジスターがONし続けます。万一ミラーボデーが異常ロックしても、C₁のコンデンサー充電(タイマー)時間後Tr₁のトランジスターがOFFし、Tr₂・Tr₃をOFFするので電源はタイマー時間後自動的にOFFします。

タイマー時間内にミラーボデーが復帰し終わると復帰位置検出スイッチがOFFするので、RY₁(RY₂)リレーがOFFしTr₂・Tr₃をOFFするので電源は停止位置で自動的にOFFします。



CB5125